

「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」議事録

- 1 日時 令和5年2月10日（金）13時30分～15時
- 2 会場 オンライン開催
- 3 出席者

【県】

（県庁）阿部知事、清水企画振興部長、林産業労働部長、渡辺観光部長、斎藤リニア整備推進局長、佐藤長野県観光機構専務理事

（飯田合庁）丹羽南信州地域振興局長、内田南信州地域振興局副局長

（各所属で接続）竹村上伊那地域振興局長、太田参事兼飯田建設事務所長、兵藤木曾地域振興副局長（オブザーバー）

【市】 佐藤飯田市長、白鳥伊那市長、伊藤駒ヶ根市長

【南信州広域連合】 下平豊丘村長

【上伊那広域連合】 小田切宮田村長

【木曾広域連合（オブザーバー）】 勝野南木曾副町長

4 発言要旨

◆あいさつ

【阿部知事（座長）】

- ・リニアバレー構想の推進について、日頃のご協力、ご尽力に改めて感謝。
- ・リニア工事は静岡工区で足踏み状態。関係者間で前に進めてもらうよう働きかけていきたい。
- ・リニア駅のできる飯田市、また伊那谷、木曾地域、諏訪地域を含めて、リニア開業に伴い人の流動が大幅に変わる。この変化を地域発展に活かすよう、皆さんと伊那谷の目指す方向性を共有して取り組んでいきたい。
- ・協議事項の伊那谷の強みを活かした重点的な取組については、私から問題提起させていただいたもの。リニアバレー構想に掲げたものは着実に進めることが重要だが、コロナで社会が変わっている中で、伊那谷は何を強みとして国内外に発信していくのかという方向性を共有したい。
- ・また、戦略的チャレンジについて、現在観光や交通を進めてはいるが、進捗ペースが遅い、活動が見えにくいとも感じている。これは県の反省点であり、今後取り組みをしっかりと行う中で、着実な成果を出せるよう取組内容を変えていくべきだと思う。
- ・本日の議論を通して効果的な伊那谷地域の振興、発展につなげたい。力を合わせて未来の伊那谷を創っていききたいので、皆様のご協力をお願いします。

◆協議事項

（1）伊那谷の強みを活かした重点的な取組について

<主な意見等>

【佐藤 飯田市長】

- ・よくまとめていただいた。
- ・伊那谷の強みについては、コロナやウクライナの問題を始めとして世界情勢が不安定な状況の中、再生可能エネルギーや森林資源など伊那谷の強みを活かして足元を強くしていくことが、今後生き残る地域となるための必要要素であり重要だと思う。併せて教育・文化も大事な視点。2つとも射ていると思う。

【白鳥 伊那市長】

- ・事前に話したものがまとまっていて、その通りだと思う。
- ・伊那谷に何が必要なのかと考えると、食べるもの、飲むもの、エネルギーを自分達で手当てできる地域ということをベースとして、その上に産業や農業、医療や福祉が乗っているものだと思う。地域としてバイオマスや水力発電が盛んで、信州は森林県で安心だと外から認識される。そうした仕掛けが大事。自然がたくさんあるというのはどの地域でも同じ。「信州」や「伊那谷」を上手にブランディングする議論をしていくべき。
- ・また、地方での教育環境の整備、人材確保、育成も極めて重要。

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・ようやく具体的な方向が見えた。歓迎する。欲を言えば他にも色々あるが、まずは一致してやるものについて、いつまでに何をやるという工程表を基に進めてもらえればと思う。
- ・海外でも EU を始めとして脱炭素の動きが加速している。脱炭素に取り組んでいないと貿易もできない EU の方針が、今後世界のスタンダードになると思う。
- ・教育、人材育成が、これから地域が選ばれていくポイントになると思う。高等教育も大切。県の高校再編も前倒しでこの地域で取り組んでもらいたい。駒ヶ根市では赤穂高校をスーパーコミュニティスクールにするよう取り組んでいる。地域の課題解決を一貫して学び、取り組める学校にする。JICA や JOCA があるという強みを生かして連携して国際教育も行う予定。特色ある高校づくりについては、県もしっかり取り組んでほしい。高等教育の要素はぜひ盛り込んでほしい。

【下平 豊丘村長】

- ・伊那谷をどうしていくかという理念を上手にまとめていただいた。
- ・長野県人の特色として真面目な気質があるが、遊びの要素も含めて考えてもらえればと思う。人口減少社会の解決に向け、この理念を大事にしながら、どのように生産年齢人口を増やすかを同時に考えていく必要があると思う。

【小田切 宮田村長】

- ・まとまっているとは思いますが、明確な「選ばれるもの」がないと他地域との差別化が難しいと思う。移住や観光等も含めて選ばれる地域となるために何をしていくか、それを選ぶ人に向けてどのように発信して伝えていくかが重要だと思う。

【阿部知事】

- ・基本的な方向感はあると思う。県全体の目指す方向性とかなり重なっており、そこに伊那谷のエッジを利かせてどう創っていくか。
- ・作文はいいので、実行するための体制づくりについて、何を指して何をやるのか事務局で幹事会と相談して、早急に案を作してほしい。
- ・伊那谷の市町村は、かなり色々な政策に取り組んでいると認識。特に子育て支援などは市町村の取組の方が進んでいる。その一方で個別の市町村単位だと効果的に発信しきれていないと感じている。
- ・まず安定・自立した地域として、エネルギーや森林、食料や文化面で、政策面と実際何をやっているかを可視化するだけでも際立った発信ができると思う。併せて磨き上げの着眼点を首長の皆さんと共有して進めることができれば特色ある地域にできると思う。
- ・教育については、県全体で教育改革にしっかり取り組んでいく。高校改革の懇談会では、個別の高校同士を単純に統合して終わりではなく、特色を出せるようにやっていきたい。
- ・来年度予算で学びの円卓会議を設置し、不登校の子どもの支援に取り組んでいく。今の学校教育は限界にきていると認識している。不登校の子どもの話を聞く中で、その子が悪いのではなく学校教育に問題があると感じる。学校教育そのもののあり方を考える必要がある。
- ・伊那谷の市町村で取り組んでいる教育は良いものが残っていると思う。良いものを発展させている取り組みも多い。新しい時代の学びを伊那谷から考えていくことが、県全体としても有効だと思う。
- ・ぜひ伊那谷自治体会議の場でも教育や人づくり、延長となる人材確保について皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・下平村長の言う通り、遊びの要素も必要だと思う。若い人や女性を惹きつける地域になるよう、若者や女性のアイデアを取り入れてやっていくとともに、それをどう発信するかという点も県としてしっかり取り組んでいく。
- ・森林林業、エネルギー、食料政策や文化など伊那谷は進んでいるので、皆で共有して、しっかり取り組んでいければと思う。

【白鳥 伊那市長】

- ・教育について、不登校や引きこもりの支援は市でもやっているが、全国的に増えている状況。教育委員会とは、カルテのように一人一人原因を探って解決する研究を進めている。
- ・もし県の高校再編で空いた校舎の後利用を自治体で検討してよければ、子どもの居場所づくりなどに活用したい。
- ・高校教育は既存の延長でない新しいものをつくる必要がある。
- ・高校入学を機に地域から外に人が流れていく現状がある。遠距離通学は家庭としても

大変。中高一貫校でも選択肢を増やすなどしていかないと人が出て行ってしまう。地域も一緒に考えていく必要がある。

【阿部知事】

- ・不登校を考える会では、国の調査で把握できない、本当の意味の実態を把握するため調査票自体から検討している。この取り組みにまたご協力いただきたい。
- ・不登校の子どもと話したが、非常に明朗快活であり、堅苦しい学校文化が合わないのだと感じた。我々大人は何となく学校はこうだった、こうあるべきというイメージが染みついている。今の子ども達には堅苦しいものがルール化されすぎていて、居心地の悪さを感じている人が大勢いると思う。
- ・多くの子どもは多少の違和感があっても学校に合わせていると思う。不登校の問題の対応には、学校のあり方自体を変えないといけない。これは子ども達の無言の意思表示だと感じている。ぜひ一緒に考えさせてほしい。
- ・伊那谷から松本までバス通学している人もいるが、中山間地の町村だと高校の段階で外に出ていってしまうということも聞いている。県民対話で感じたこととして、県民の皆さんは高校についての問題意識が高いということ。信州から教育のあり方を考えていきたい。伊那谷から先駆的な教育のあり方を考えていければと思うので、よろしくをお願いします。

【小田切 宮田村長】

- ・村でも色々な子育て支援やキャリア教育に取り組んでいるが、進学で村に戻ってこない人が多い。戻ってくるのは4割程度。一人一人に選ばれるふるさとなることを願っている。

【佐藤 飯田市長】

- ・発達障害のサポートについても併せて考えてほしい。現在、市立病院に信大の先生が来ているが、頻度が少なく2、3か月待ちの状態。地域でのサポート体制に偏りがあり、伊那谷は薄いと感じる。教育問題を考えるにあたって、発達障害のサポートも含めて手を貸してもらえるとありがたい。

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・ぜひ尖った教育をやってほしい。移住や交流で訪れる人が気にするのは子どもの教育環境。親が高学歴であれば、その水準の教育が地域で受けられるのかと心配する。高校を出たらハーバード大にも行ける地域だと認識されれば、また進学校やコミュニティスクールなど色々な選択肢があれば親の悩みも解消される。ここに力点を置いてほしい。

【阿部知事】

- ・教育改革は待ったなし。県の総合5か年計画でも教育、子育てに力を入れる方向性としている。これは県組織だけではできないこと。学校の意識や国の制度の問題、教育

委員会や県民、保護者の皆さんと一緒に行動していく必要がある。

- ・国際バカロレアの認定校をつくるとか、白馬高校のような全国募集など、現在の教育自体を変える必要がある。これからの地域の特色は教育が中心。人材確保の問題でも、例えば医師を誘致しようとする、自分の子どもを医師にするための教育が地域で受けられるのかという話になる。
- ・教育は極めて重要なテーマでありながら、首長の皆さんと本音で語り合えていないと感じる。この状況を見過ごすのは罪だと思う。この信州から教育改革をやっていく。皆さんにもどんどん提案をいただければと思う。学校の先生方や保護者の皆さんとも変わる方向性を共有して、子どもの望むことへの支援に取り組んでいく。これは市長会や町村会でも話をしていく。

【下平 豊丘村長】

- ・コロナで感じているのが、国が黙食等の緩和の方針を出しても学校現場が安全策をとってしまい、対応が変わらないということ。学校や先生の意識改革が重要。

【阿部知事】

- ・教育の一番の問題は、皆さん一生懸命に取り組んでいるが、責任が分散されていて、最終的に誰が責任を持つのが曖昧なこと。教員でも問題意識を持っている人はいる。これを前向きに捉えて皆さんの力を引き出せるようやっていきたい。

【白鳥 伊那市長】

- ・極めて重要なのは通信環境の整備だと思う。これは伊那谷全体で取り組むこと。ローカル5G、Wi-Fi、スペースXなど、どこにいてもインターネットにつながる環境を整備しないとドローンもWeb会議も動かないので、しっかりしたネット環境をつくっていくべき。

【阿部知事】

- ・通信環境は県が責任を持って取り組む分野。環境や文化、教育等、一定の方向性を共有できたので、今後中心となって進めていく人を定めて、工程表を作って進めていく。幹事会で検討してこの会議で共有するよう、事務局には進めてほしい。首長の皆様にもご協力をお願いします。

(2) 企業誘致の今後の進め方について

【小田切 宮田村長】

- ・極めて難しい問題。資料の進め方も大事だが、地元商工業者とも一緒に進めていく必要がある。これには時間がかかるので、ある程度スケジュール化してほしい。県が示した資料は全てスケジュールが入っていない。

【林 産業労働部長】

- ・企業誘致は、企業の経営動向も踏まえる必要があるが、人材定着の環境整備は待ったな

しの状況。海外拠点を持つ伊那谷の地元企業と、連携を図りながら、伊那谷の地元企業と win-win になれるような企業の誘致を進めていく。

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・ぜひ進めてほしい。以前も話したが、これはリニア中間駅を抱える都道府県単位での競争。伊那谷に IT 企業を連れてくるにあたって、働きかける相手は国内だけでなく海外も視野に入れる必要がある。これは市町村単独では難しいので、県が先頭に立って海外に売り込むことを願います。
- ・誘致ができて働く人材の不足から、地域で人の取り合いになる側面もある。IT 企業など地域に対してメリットがある企業を誘致してほしい。
- ・併せて、フレキシブルな受入態勢の整備が必要。住所の異動がスムーズにできる、仮に 1 年だけの滞在でも既存の住民と同じサービスが受けられる。県特区で統一した住民サポートが可能となるよう検討してほしい。

【白鳥 伊那市長】

- ・企業誘致は企業の国内回帰、IT 企業誘致、三遠南信自動車道を活用したリスク分散の観点があるが、もう一つ大事なのが企業価値の変化。脱炭素や ESG の取組が企業の価値として評価される時代。そうした時に、伊那谷、長野県は十分なアドバンテージがある。ここを強く打ち出せるよう県で考えてほしい。

【林 産業労働部長】

- ・国際競争や国内の地域競争について、伊那谷は JICA、国際協力拠点があり、国際協力は企業の価値向上につながる CSR 活動でもあり、地域の価値向上につながる。再生可能エネルギー資源の宝庫であることも織り込みながら取り組む。
- ・県外企業の投資の話があるが、多くの新規雇用が必要な企業もあり、実現には県内の人材のマッチングだけでは足りないため、県外からの人材誘致にも取り組んでいく必要があると考えている。

【佐藤 飯田市長】

- ・この地域全体で誘致を進められるよう県がリードしてほしい。市町村も協力しないといけないので、今後情報があればネガティブなものも含めて共有してほしい。我々も県に任せきりにならないよう連動していく。

【阿部知事】

- ・資料に IT 企業の文言が入っていないが、目指すものがぼやけないか。

【林 産業労働部長】

- ・進出意向のある企業はデジタル系や半導体メーカーが多いので、IT 企業に限らずという考え方。

【阿部知事】

- ・伊那谷の強みを伸ばす、活かす企業誘致が必要。白鳥市長、伊藤市長からいい提案を

いただいた。この地域にきたら、必要なエネルギーは再生可能エネルギーで賄えるようにするとか、ペレットで暖房が賄えるとか、企業としても脱炭素の取組が社会的に求められているので、伊那谷にきたらこういうことができますよということまで落とし込まないと。伊那谷がどういう地域で何がメリットなのか掘り下げてほしい。

- ・二地域居住をしている人に第二住民票を発行するとか、既存住民と同様のサービスを打ち出せないといけない。
- ・環境や森林、文化関係のベンチャー企業の誘致等も視野に入れて。森林サービス産業の振興は5か年計画に入っているが、伊那谷の価値を高める観点で修正案を工夫してほしい。

【下平 豊丘村長】

- ・企業誘致とともに大学誘致の文言がないのはなぜか。シリコンバレーが大きくなったのは、スタンフォード大学の存在が大きい。こうしたことも考えてほしい。

【丹羽局長】

- ・今後、大学のあるまちづくりの検討の中で考えていく。

◆報告事項

(1) リニア長野県駅（仮称）の駅前空間の検討状況について

【小田切 宮田村長】

- ・北陸新幹線金沢駅のように、これが長野県というシンボリックなものをコミュニティ広場でもどこでもいいので入れてもらえると我々も話しやすい。

(2) リニア長野県駅の広域的な利活用検討の進め方について

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・リニア駅アクセスの検討会議で、二次交通のどこまで対象とするか。リニア駅からの利便性を考えると、リニアから伊那谷、木曾谷までで、松本や長野までは二次交通で考えなくていいものだと思う。リニア駅から1時間あるいは1時間半と想定して考えた方が効果的な交通システムをつくれると思うので、検討のポイントとして考えていただければと思う。

【佐藤 飯田市長】

- ・県の意見もあるので整理して考える。これまでの構想では松本空港まで想定していたので、いただいた1時間ほどの距離というものも含めて検討する。

【丹羽局長】

- ・県も飯田市としっかり相談して進めていく。

(3) 戦略的チャレンジの成果・課題・今後の方向性について

特に意見等なし

◆知事（座長）総括

- ・戦略的チャレンジは幹事会で検討してもらい、いつまでに誰が何をするのか、更なるブレークダウンを。
- ・幹事会の検討状況は我々にも共有してほしい。伊那谷自治体会議のパーツをよく考えてほしい。
- ・県としては伊那谷自治体会議、リニアバレー構想の推進について、しっかりと巻き返しを図りたい。「長野県リニア中央新幹線地域振興推進本部」で、県としての取組について、年度内に会議を開催して検討し、皆さんにフィードバックする。
- ・戦略的チャレンジについては、県としても、振興局を跨る唯一の振興策がリニアバレー構想であり、広域的な視点で伊那谷をどうするかは重要なテーマ。リニアに向けた重点テーマを皆さんとしっかり共有して進める必要がある。本庁の組織も機能強化を図りたいと考えている。引き続き一緒になって取組を進めていきたい。

【白鳥 伊那市長】

- ・知事から巻き返しというお話があったので発言させていただく。企業誘致やインバウンド、二地域居住の推進にあたり、メタバースを研究すべきと思う。

【阿部知事】

- ・県としても研究する方向なので、またご協力をお願いします。

【丹羽局長】

- ・今後幹事会で検討し、共有する。

(終)